土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調　査　名　丹屋奥谷西川通常砂防事業に伴う業務委託

事業名 または 工事名

調査目的及び調査対象　砂防 砂防

ボーリング名	Bor.No.4	**調査位置**	広島県福山市水呑町　地内					**北緯**	34° 26′ 27.7890″
発注機関	広島県東部建設事務所			**調査期間**	2019年　9月 30日 ～ 2019年 10月　2日			**東経**	133° 22′ 20.2066″
調査業者名		**主任技師**		**現場代理人**		**コア鑑定者**		**ボーリング責任者**	
孔口標高	T.P. 98.26m	**角度**	180° 上 90° 下 0° 0°	**方位**	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	**地盤勾配**	水平0° 鉛直 90° 15°	**使用機種**	
総削孔長	4.00m								

試錐機	東邦地下工機　D1-B		
エンジン	ヤンマー　NFD-13	**ポンプ**	東邦地下工機　BG-3C

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	現場土質名（模様）	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色調	相対密度	相対稠度	地質時代名	記事	孔内水位／測定
	97.66	0.60		玉石混じり砂礫		淡褐灰			新生代第四紀	玉石流堆積物に相当。ほぼ全量が礫分からなる。大径の礫分は，コア長6～13cmで採取される。基盤との境界は，不明瞭かつ不明確である。	
1	96.81	1.45		風化流紋岩		淡黄灰				割れ目沿いに著しい砕片化と中程度の土砂化を伴う。本質的には角礫状コアが主体と評価される。【CL級岩盤に相当する】	
2 3	94.26	4.00		風化流紋岩		淡黄灰			中生代白亜紀	短柱状コアと角礫状コアが不規則に繰返し，岩盤状況は安定しない。ただし，上位区間のような土砂化は認められない。岩片自体は本来の色調を示し，中硬質であることが多い。分離に至っていないヘアークラックが非常に多く，中程度の衝撃によりバラバラになりやすい。【CL級岩盤に相当する】	
4 5											

標準貫入試験																																			
深度－N値図																																			
0	10	20	30	40	50																														

N値	深度 (m)	100mmごとの打撃回数 0～100	100～200	200～300	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	原位置試験	削孔月日
	1.00	貫入	不能		50/0								9/30
	1.00												
	2.00	貫入	不能		50/0								
	2.00												
	3.00	貫入	不能		50/0								
	3.00												
	4.00	貫入	不能		50/0								10/1
	4.00												